

平成 29 年度 舞鶴市総合教育会議 会議録

- ◎ 開催日時 平成 29 年 5 月 29 日（月）午前 10 時～11 時 50 分
- ◎ 開催場所 舞鶴市役所第 2 委員会室（本館 4 階）
- ◎ 出席者 舞鶴市長 多々見 良三
教育長 佐藤 裕之
教育委員 荻野 隆三
教育委員 荒木 穂積
教育委員 南 賀子
教育委員 岸本 純子
教育委員 富川 唯夫

1. 市長挨拶

2. 報告事項

教育振興大綱事業計画書について
—事務局から報告—（資料 1）

3. 協議事項

<協議テーマ>

『子どもの夢・目標・志を育み、本市の将来を支える人材として育むためには、学校や行政、地域、家庭は何をなすべきか』

<論点>

- (1) 本市で生まれ育つ子ども達が、ふるさと舞鶴の良さを知り、郷土愛を持つとともに、将来へ向けての夢や志を育むためには何が必要なのか。
- (2) 保幼小中の切れ目ない教育の推進を図るため、舞鶴市乳幼児教育ビジョンを踏まえた取組や、小中一貫教育などの取組を進める中で、今後さらにどういった取組が必要なのか。
- (3) 若手教員が多くなっている現状等を踏まえ、学校・教員に求められる教育力を、どのように向上させていくのか。
- (4) コミュニティ・スクールの導入により、地域と学校がどのように連携を進めていくべきなのか。地域の教育力をどのように活かしていくか。
- (5) 家庭の教育力を高めるうえで、親教育をどのように進めていくのか。
- (6) 家庭の実情を踏まえ、学校と家庭とがどのようにつながりを深め、家庭支援を行っていくか。

<意見>

(教育長)

- 教育はまちづくり、人づくりの土台を担っているということを再度自覚したい。舞鶴市教育振興大綱の目指す子ども像、基本理念を土台として、取組を進めていく。
- そのため、教育委員会では3つの「繋ぐ」を実践していきたい。1つ目は、小学校と中学校を「繋ぐ」小中一貫教育。2つ目は、学校・地域・家庭を「繋ぐ」コミュニティ・スクールの導入。3つ目は、就学前と就学後の子供達を「繋ぐ」乳幼児教育ビジョンの推進。これらを基本に据えていきたい。
- 論点(1)に関する事例をご紹介する。去る5月4日に開催された舞鶴つつじまつり、5月27・28日に開催された田辺城まつりにおいて、地域の子供達が会場の清掃活動や運営に参加したり、出演したりして、子供達が地域の方々としっかり繋がって行事に参加している姿を見た。大変嬉しく、また、舞鶴の誇りとすべきことだと感じた。
- 子供達へのアンケートに「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という設問があり、「当てはまる」と答えた小学生の割合が57.8%（全国平均39.1%）で、全国に比べて18.7%も高い。「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた小学生は85%になっている。中学生は25.8%（全国平均19.1%）で全国に比べて6.7%高くなっている。本市の子供達は地域との繋がりや土台はしっかりとできているし、大きな強みだと思っている。
- 地域との繋がりという強みを活かすべく、本年度はコミュニティ・スクールの導入に取り組んでいきたい。また、子供達が大きな視点で舞鶴を捉える取組として、中学生による子供議会を開催したい。

(荻野委員)

- 保護者支援ということを大切にしたい取組を我々は考えていかなければならない。例えば子供が不登校になった、あるいは学校で問題を起こした、不適應の状況に陥った等、保護者が子育てに困った時に、どこに相談すれば的確に受け止めて、アドバイスしてもらえるのかを発信することが必要。子供と日々関わっている幼稚園、保育園、小・中学校が相談機能をしっかり持ち、専門性も高めながら、保護者の目線に立って考えていけることを大事にしていく必要性を感じている。
- 本市では小中一貫教育が進められており、義務教育課程をシームレス化するものであるが、ある場合には段差がプラスに働くことがある。多くの子供達は段差を乗り越えて育っていくが、中には特別な支援を要する子供達がいるため、子供の特性をしっかり理解して、一人一人が新しい環境に入っていけるよう、個に応じた取組が必要だと思っている。

- 小中一貫教育はとても大事であるが、長い間続いてきた学校制度を一部とはいえ変えようという取組なので、小・中学校の教職員に、小中一貫教育のねらいや基本的な枠組み、学習指導・生徒指導・特別活動を義務教育9年間でどう見ていくのか等の研修機会を十分設けていただきたい。
- ふるさと舞鶴を愛する子供達を育てるのは非常に大事な事。ふるさとを理解するという筋が1本あって、同時に舞鶴以外の、例えばユネスコスクールと交流をして、人々の生活や地域の特色を比較しながら理解することによって、ふるさとに対する理解が深まることも考えていいのではないか。

(荒木委員)

- 子供達が夢や目標を持つには、余裕がないと難しい。例えば子供の貧困問題、いじめ不登校問題にしても、明日、明後日のことは考えられない、その日をどう過ごしていくかという状況になるので、子供達が安全で安心できる家庭環境や教育環境を作ることが、夢を育む土台になると思う。
- 夢を考えるときに、「本物」に触れる機会をぜひ作っていただきたい。例えば一流のスポーツ選手から話を聞くとか、製造業の現場で工夫して働いている様子を見るとか、サービス業の現場でどういう努力をして、働いておられるのかという舞台裏を見せるような取組も職業イメージを育てることになる。このほか、日本を世界一に導いている様々な環境や場所を実際に見に行ってみる機会を設けてもいいと思う。
- 子供達が夢を持ったとしても、実現する能力を身に付けないと、夢はなかなか近付いてくれない。身に付けたい能力として、社会性、学力、コミュニケーション能力がある。今は英語能力も大事であるため、これらにしっかり取り組んでいく必要がある。
- それから、教員、保護者、市役所職員など、子供達を支援する立場の関係者が研修を積んで力を付け、子供達の夢の実現を支える仕掛けを考えていけたらと思う。

(南委員)

- 学校・家庭・地域が繋がるコミュニティ・スクールを進めていくためには、ハード・ソフトの両面から環境整備が大事。ハード面として、過ごしやすい学校環境を整える観点から、学校体育館に空調設備を整備することを検討していただきたい。ソフト面では、学校・家庭・地域が熟議をするためのファシリテーターの力が重要であり、教職員にはこれまでに以上に保護者目線に立つことを心掛けていただければ、いい取組になると思う。
- 英語教育も大きな課題になる。読み書きだけではなく、コミュニケーションの中で、どれだけ英語を話す機会を与えてあげるかが重要。今度の取組に期待したい。

- 家庭の教育力を高める取組に関しては、舞鶴市乳幼児教育ビジョンの「子どもの対する関わりの視点」が具体的で分かりやすい。ビジョンでは0～5歳になっているため、15歳までの「子どもの対する関わりの視点」があれば、一貫性があるって分かりやすいのではないかな。
- 舞鶴にはクルーズ客船が多く入港するようになっているし、東京オリンピックのウズベキスタンのレスリング合宿が舞鶴に内定されたところ。子供の夢や目標を育むため、世界と触れる機会を設けていただきたい。

(岸本委員)

- 子供達がふるさと舞鶴の良さを知るためには、従来から取り組まれているふるさと学習に加え、小学生の段階で職場体験をすることが、自分の将来を考えるきっかけになるのではないかな。
- 幼稚園に入園して集団生活を経験するまでの、家庭における教育が大事。3歳までは、ほとんどの子供が検診を受けているので、その場をもっと活用した悩み相談等の子育て支援を充実してはどうか。
- 学校・教員に求められる教育力に関して、福井県への教員派遣研修は大変いい取組であり、継続していただきたい。研修効果を少しでも早く波及させるため、派遣人数を増やすか、福井県から指導的立場の先生を招致してはどうか。
- 本日の配布資料に中筋小学校の事例（とんぼクラブ、まちの先生）があり、素晴らしい取組だと思う。難しいかもしれないが、学力向上として国語や算数の「まちの先生」がおられたらと思う。
- 家庭の教育力を高めるには、規則正しい生活を機会あるごとに啓発することが必要。併せて、家庭学習にしっかり取り組むことができる環境を作っていただくなど、保護者に協力いただかないと難しい。

(富川委員)

- 歯科医師の立場として、2点提案したい。1点目は、小学校で実施しているフッ化物洗口を中学校でも取り組んでいただければと思っている。2点目は、よく噛んで食べるという習慣を身に付けるため、学校給食の場で重要視して取り組んでいただけたらと思う。
- 内閣府のインターネット利用に関する調査によると、2歳児の28%がインターネットを利用しているほか、親が言っても辞めないというのが23%。今後、取り組むべき課題かと思う。

(市長)

- 皆さんの話は、まさに共感できる。本日の協議テーマに6つの論点があるが、私としては、子供達の夢を育むためには、これらの視点が重要だと思っている。
- 少し掘り下げて意見をお聞きしたいが、子供達に夢を尋ねると、小さい子供達は様々な夢を語ってくれるが、大きくなるにつれ、夢を語れなくなってしまう。この背景は何だろうと思う。子供は常に夢や目標を持ち、その時々で夢や目標が変わってもいいが、夢に向かって努力することが大切だと思っている。委員の皆さんには、この背景と、それを改善するための案があれば、お聞きかせいただきたい。

(教育長)

- 以前、市長から立志式について教えていただいたが、過去には青葉中学校で実践していた。同校の中学1年生全員が夢を書いて、代表者が保護者の前で夢を語るというもの。
- 荒木委員から「本物に触れる機会」との意見もあったが、子供の身近に手本となる人がいることも大切。親の仕事に関わるような職業に就きたい、体育祭や文化祭でリーダーとして活躍していた兄姉のようにになりたい。そういう存在が身近にいることは、子どもの夢を育むことになる。
- 教育委員会としては、子供達が夢を実現するための学力、体力、心を培っていかねばならないと思っている。

(荻野委員)

- 舞鶴支援学校で取り組まれているキャリア教育は、子供が将来、働くことを目指して、小学部から高等部まで1本筋を通して整理し、明確になっていると感心した覚えがある。
- 皆さん言われるように、体験を通して自分の考えを結んでいくことは非常に重要。福井県の取組事例で「夢カルテ」があり、小学4年生から中学生まで、自分の夢やそれに関わることを書いて、バインダーで綴っている。過去も振り返ることができ、丁寧な取組だと思う。そういうサポートの仕方も考えてみてはどうか。

(荒木委員)

- 子供達に夢を持ってもらう、夢を育てることを、なぜ我々が大事にしたいと考えているのかを、教職員や保護者により丁寧に伝える必要がある。
- 本日の資料の中に、将来の夢や目標を持っているかを尋ねた調査結果があるが、2つの傾向があって、1つは本市の小・中学生は全国平均と比べていずれも低いという現実。もう1つは、中学校になると夢や目標を持っている割合が下がる。この調査結果は、舞鶴の

教育の総合的な結果であり、全国から見てももう少し頑張れという風に見えてならない。今後どうしていくのか、教育振興大綱の中でもきちっと議論してみてもどうか。

- 将来の夢や目標を持っている割合が中学生で下がるのは思春期特有の現象。中学生になると、より社会に近づいてきて、現実的になってきて、夢や目標を持ってない。特に、受験を控えた1年前の中学2年生には、色々な仕掛けを作って、友達が持っている目標を知ったり、自分の身に立ち返らせたり、キャリア教育につなげていくような取組をすればどうか。

(市長)

- 私は中学校へ出向いて2年生に講義をしているが、直接話をしたいと思った理由は、私が生まれたまち石川県では中学2年生で立志式をしていて、子供から大人に変わる極めて重要な時期ということもあって、中学2年生に話をしている。
- 昔は、親が働いている姿を子供が身近で見たり感じたりしていた。自分が起きる前から働き始め、寝る時にも働いている。子供は親を尊敬していたし、親は子供に背中で「頑張れ」とシグナルを送っていた。それが今は、親が頑張っている姿をあまり見ることがない。親や教職員が子供へ働き掛けることが重要ではないかと思っている。
- 私は、学力が高ければ高いほど良いというのは各論としていいと思うが、総論としては間違いだと思う。将来、どのような仕事をするために勉強するのか、準備するのかということが重要。小学生の時は周りの人との関わりの中で、協力して生きるという社会性を育み、中学生になってから競争しないと自分が就きたい仕事に就けないということを意識させる。そのため、親や教職員の役割はすごく重要だと思っている。
- 今の社会には様々な情報が溢れているが、これらの情報は主語と述語だけの断片的な情報だと思っている。そのような中で、子供達は果たして正しい判断ができるようになるだろうか。一つの事象に対して様々な捉え方や考え方をしている人がいること、その捉え方や考え方を子供達に示し、自分で判断させることが極めて重要だと思っている。委員の皆さんはどのように感じておられるか。

(南委員)

- 子供達は、心の中では何かしら夢を持っていると思う。ただ、荒木委員もおっしゃったように、中学生になると自分の身の丈が見えてくる、色々な部分で自信を失くしていくのだと思う。
- 親と子供との関わりの中で、例えば子供が宇宙飛行士になりたいと言った時、今の学力では難しい場合であっても、夢を実現するための道筋を何気に示してあげられる環境であってほしいと思う。親だけではなく、周りの大人の関わり方が重要だと感じる。

(岸本委員)

- 子供達に、夢や目標を持つことの大切さについて話す機会を設けることが第一かと感じた。また、親としても、子供の夢に協力してあげる姿勢が大事。保護者や子供にそのことを発信することが必要。

(富川委員)

- 私の小学生の孫は、親から医者になれと言われ、塾に通っているが、孫自身が本当に医者になりたいと思っているかは、もう少し大きくなってから孫に聞いてみたい。私自身が親の立場であった時と、祖父の立場になった今とでは、立場によって随分考え方が違うなと痛感している。

(市長)

- 荻野委員から、子育てに困った時、保護者はどこに相談したらいいかという話があったが、「子どもなんでも相談窓口」があるため、市民へ更なる周知をしたい。
- 荒木委員から、教員研修もさることながら、市職員研修も必要ではないかと提案いただいた。市職員も教育に関わるのが重要と感じた。
- 岸本委員から、幼稚園に就園するまでの家庭における教育について指摘をいただいた。私も1歳くらいを過ぎれば、集団生活の中で社会性を身に付けるべきと思っており、家の中で囲って子供を甘やかしているなら、それは違うと思う。それと合わせて、規則正しい生活をする事の重要性も行政として発信すべきだと聞かせていただいた。
- 富川委員から、中学生へのフッ化物洗口の拡大について提案をいただいた。宿題とさせていただく。
- 荻野委員から提案があった「夢カルテ」は、すごく夢のある話で、いいアイデアとして聞かせていただいた。
- 子供達には、舞鶴には舞鶴高専やポリテクカレッジ等の教育機関があり、仕事もたくさんある。大学等へ進学するために一旦は市外へ出たとしても、舞鶴にはこれだけ働ける企業があるということを、周りの大人が話してあげられるようになればいいと思う。まちづくりと地方創生の原点は教育だと思っており、今後とも教育の充実に力を入れていきたい。よろしく願います。

閉会